

## 所信表明：6年の担任になって

(導入)

T：〇〇先生は、どんな先生だと思いますか。短い言葉で言ってください。

C：自分の思っている「〇〇先生」のキャッチコピーを言う。

T：そうですか。どんな先生になるかは、みんなにかかっていますよ。

(課題)

T：さて、今日は、これから1年間みんなと過ごしていくために大切なことを言います。やるべきこと2つ、やってはいけないこと2つあります。

やるべきこと

1. 「みんなは、一人のために、一人はみんなのために」・・・(板書・学年・学級目標とする)

(英語にしますか? All for One, One for All.)

2. 〇〇小学校の児童の代表であるという自覚を持って行動する。

やってはいけないこと

1. 生命に関わること

2. 人権に関わること

(説明)

では説明しますね。

やるべきこと1. 「みんなは、一人のために、一人はみんなのために」

一人の仲間に対して、みんなが「どうすれば、この友達が喜んでくれるか」といつも考えて行動することです。そして、自分は、「みんなのために何ができるか」を常に考えて行動することです。これを学級目標にします。

やるべきこと2. 〇〇小学校の児童の代表であるという自覚を持って行動する。

あなた方の行動は、「6年生の子どもが・・・」ではなく「〇〇小学校の子どもが・・・」と周りのみんなから言われるということです。いいことも、悪いことも「〇〇小学校の子どもが・・・」といわれるのです。そのことをしっかり自覚して行動しましょう。

やってはいけないこと1. 生命に関わること

けがをするような危険なことをしたり、させたりしてはいけないということです。

(具体的に示してもいい)

やってはいけないこと2. 人権に関わること

これは、人を人として認めないということをしてはいけないということです。

具体的にいうと「人を馬鹿にすること」「うそをつくことや約束をまもらないこと」「陰口を言ったりいじめたりすること」「つばをはくこと」などです。

この2つのことを破ったら、先生は、思い切り怒ります。覚悟をしておいてくださいね。

それ以外のことで、おこりません。みんなと一緒に考えて、解決していこうと思います。

わかりましたか。(確認する)

(自力解決)

T：次に、学級の目標の「みんなは、一人のために、一人はみんなのために」ですが、「私は、みんなのために何をしようと思うか。」を書いてもらいます。こんなことをしたいと、いろいろ書いてもいいし、一つの目標を決めて一年間頑張ろうと書いてもいいです。自分にできること、自分でやろうと思うこと、やってみたいことなどをかきましょう。

※原稿用紙配布。まだ書かない。(あとでかく)

T：これでみんなの想いをある程度知ることができます。では、具体的に毎日の学校生活をどのようにやっていくかですが、今までどのようにやっていたかを見せてもらいます。それを見て、4月の終わりか、5月の始めにこのようにしたらどうだろうかということをご提案します。そこから本格的にこのクラスをつくっていこうと思います。

※朝の会・終わりの会・当番・学級の係・宿題・そうじ・座席・休み時間など。どうするかは、始めは、子どもに任せる。それを見て4月末か5月に担任が提案する。

T：授業ですが、これは、先生の責任です。このようにしますと言いますからそれに従ってください。今までのやり方とは違うかもしてませんが、違う場合は、変更してください。

T：では、質問はありませんか。

なければ、(再度)「私は、みんなのために何をしようと思うか。」を書いてもらいます。こんなことをしたいと、いろいろ書いてもいいし、一つの目標を決めて一年間頑張ろうと書いてもいいです。自分にできること、自分でやろうと思うこと、やってみたいことなどをかきましょう。

かけた人は提出してください。

※かいたものは、学級懇談会で使う。

## 最初の学級懇談会

○こんな6年生になってほしいという担任の想い

学校教育目標→教育努力目標を示して、学級の目標を示し説明する。

そのあと、それについての子どもの想いをかいたものを親に渡して読んでもらう。

学級だよりを用意してもよい。

○学級経営について：5月から・・・

○授業について：全員参加・問題解決・学ぶ楽しさがわかる授業 など(係分担を言う)

○年間行事予定

運動会 音楽会 修学旅行 冬季野外活動 卒業式 地域行事 など

○保護者に「何か一言ずつお願いします。」お子さんのこと、学校への希望や願い、何でもどうぞ。でいいのでは？

○授業や子どもの様子は、公開日に関係なく、いつ見に来てもよい。「ちょっと忘れ物を届けたついでに、仕事が早く終わったのでという感じで、教室を覗いてください。」

## 決めておくこと

1. 大きな行事の分担：ペアでやるようにする。そのペアが、全て提案する。年度当初に決める。
2. 教科分担：1単元分の教材について提案する。購入すべきものは、年度当初に教科担当がそれぞれ提案する。
3. 学年全体の指揮：行事も含めてペアでやる。1人が指揮。1人がフォローと他の先生に指示。
4. 子どもに対しては、結論を子どもに言わせること。「こうしなさい。」は禁句。  
どうするかを子どもに言わせ、責任を持たせる。  
こちらの考えと違う時は、「先生はこう思うけど、よく考えてね。」  
Ex. けつまずいてバケツの水をこぼした。  
「先生、ばけつをひっくりかえました。」「わかりました。それでどうしますか。」  
「そうきんでふく。」「わかりました。そうしてください。」  
「見ている人は、みるだけですか。」という感じ。  
**いつも一言多くなる。それがいかん。**
5. 共通理解をして、同じようにするのではなく、お互いに情報交換をしっかりと、誰が何をしているかを知っておくことが大切。「知らなかった。」をなくす。「私の学級」をつくる。  
「個性のある学級をつくりましょう。そして、子どもに尊敬される先生になりましょう。」  
という。子どもに「私は、〇〇学級だ。△△学級とは違う」という自覚を持たせる。→プライド。  
そこに担任に対する「尊敬」が生まれる。

## 6. 教科担任制

- 国語、算数は、担任。ただし、専科になる場合は別。
- みんなが同じように問題解決の授業をすることが理想。

## 7. PC

- これは、個別化はできるが、集約はできない。
- 個別化したものをどうやってまとめて、授業に載せるかが問題。
- 個別化で終わる授業には、最適。→どうチェックするか？が問題。

## 8. 宿題

- やらない子をどうやってやるようにするかが課題。やる子はどうやってもやる。
- 反復練習はダメ。→百字・計算→ダメ
- 宿題は、やったかどうかを見てもダメ。→テストをして評価する。
- これから、PCを使うと個別化が進む。そうすると、**家庭学習が課題**になってくる。  
ただ単に家庭学習といって、プリント等を出せば、学力差はますますつく。  
そこをどう埋めていくかが問題。